

基本構想の性格

[本編 p1]

- 「柏原交流ゾーン整備基本構想」は、丹波地域の核として、**柏原地域における地域再整備のビジョン**を描き、方向性を提示
- 柏原地域が時代のフロントランナーとして進むための指針
- このビジョンに共感し、柏原再生に携わる人が一人でも多く現れることを期待

まちの拠点創造プロジェクトの概要

[本編 p4]

- 『まちの拠点創造プロジェクト』は、「丹波2050地域ビジョン」(2022(令和4)年3月策定)のなかで、「V 将来像実現に向けた方向性」の実現に向け、シンボルプロジェクトに位置づけられた事業
- 柏原交流ゾーンにおける多拠点居住やテレワーク等新たな暮らし方、働き方にも対応した複合的な都市機能のあり方を検討
- ー令和4年度:整備基本構想を策定 令和5年度:整備基本計画を策定

柏原交流ゾーンの概要

[本編 p2~3]

- JR柏原駅南用地(県有地・未利用地:約2.4ha)、**兵庫県立丹波の森公苑**、**城下町地区**の3つのエリアで構成:総面積約100ha(丹波都市計画区域の非線引き区域)
- 人口:約3,300人、世帯数:約1,500世帯(「丹波市住民基本台帳人口」R4.4)
- 『丹波市都市計画マスタープラン』(令和4(2022)年9月改定)において、地域資源を活用して交流やにぎわいを創出する「交流ゾーン」に位置づけられている
- 『丹波2050地域ビジョン』の「まちの拠点創造プロジェクト」の対象エリア
- 城下町地区:「歴史的な町の区域」(緑豊かな地域環境の形成に関する条例)、城下町かいばら広告景観モデル地区(兵庫県屋外広告条例)に指定

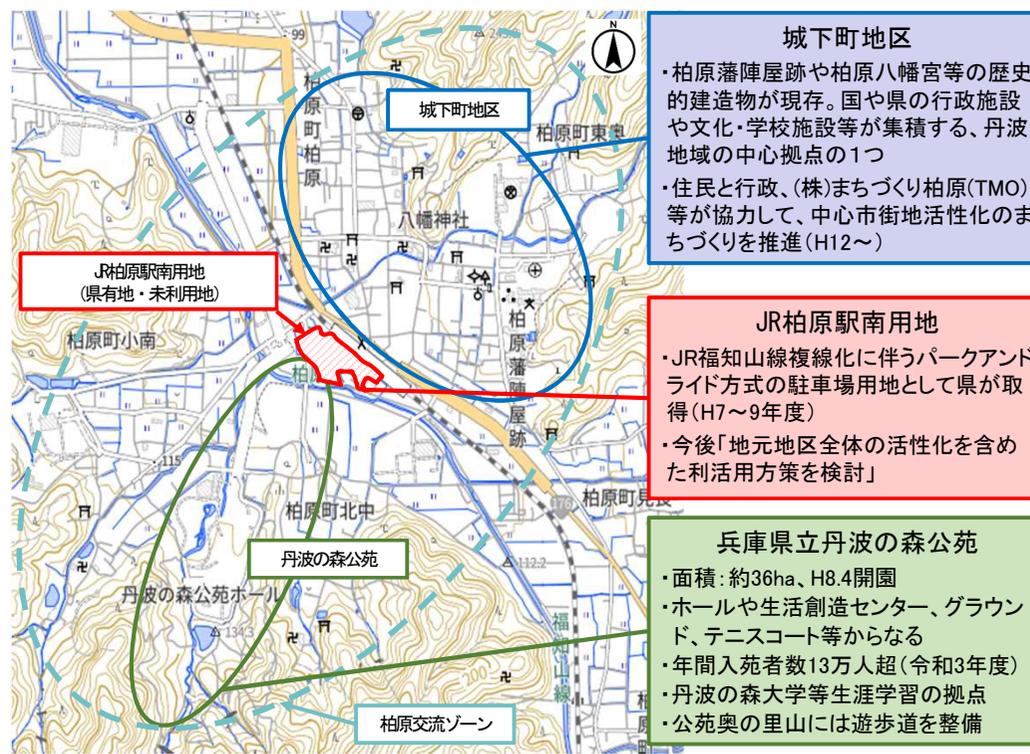
I 社会潮流の変化、近未来の展望

[本編 p5~6]

- 自由で多様なライフスタイルの浸透⇒地域社会の変容(共生社会、全員活躍型社会)
- デジタル革新の進展⇒デジタル・プラットフォーム構築(都市OS)、DXによる新サービス創出
- 価値創造社会の到来⇒各人の創造的活動を支えるまち(創造都市・創造農村)
- 活動人口、関係人口拡大の必要性⇒社会参加率向上、健康寿命延伸、開かれた地域社会形成
- 社会・経済・環境面での持続可能性追求⇒歩いて暮らせるまちづくり、環境負荷低減、共有経済

II 柏原を読み解くー現状・課題分析

[本編 p7~12]



まちのアイデンティティ

- 「交流」集い、交わるまち、拠点性
- 「伝統」まちの佇まい、文化
- 「学習」学びの伝統、教育力
- 「品格」矜持、市民力、都市格
- 「先導」明治の近代化、丹波の森づくり

圏域都市構造

- 準中心が分散する多心型都市構造
- 広域化・遠隔化する自動車生活圏
- 歩行圏のまちづくり、持続可能な都市
- 新しい働き方・暮らし方の実践空間
- 多様なライフスタイルの創造が可能な都市

顕在化するまちの課題

- 空き地・空き家の増加→活力低下
- 歩いて行ける日常買い回り店舗の不足→普段使いのまちとしての不便さ
- 回遊性のないまち、時間を使えないまち
- ハレの日に集い交わる場所の欠如

市民の声

- たまり場、居場所の必要性
- 多様なライフスタイルを支える住まいの存在
- 子連れ、若者、女性が楽しめる機能・施設
- IT関連施設・デジタルインフラの整備
- 地域のゲートウェイ・ショーケース機能の整備
- 交流ゾーン内をつなぎ、一体化

時流変化を受けてー地方回帰、脱炭素社会ー

- 令和4年丹波市社会増減:市制開始以来、はじめてプラスに
- →増加する移住者や関係人口のニーズに応え、多様なライフスタイルの選択が可能なまちづくりの推進
- →移住者や関係人口を地域の力に活かす仕組みづくり
- 「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」(2022.12.27)
- →脱炭素に向けた持続可能なまちづくりを宣言

KAIBARA 時代のフロントランナーへ

コンパクトにまとまった市街地、歴史的建造物・街並み景観、教育文化の伝統、鉄道、里山空間など

↓

時代が求める新しい暮らし方に適合したまち(持続可能な都市、創造都市)として輝く可能性

Ⅲ 基本コンセプト

組み立て・デザイン

[本編 p13]

ー新しい社会潮流(時流変化)、まちのアイデンティティ・DNA、顕在化するまちの課題(都市機能等)、圏域都市構造、市民の声を踏まえデザイン

メインコンセプト

[本編 p14]

「古くて懐かしくも、新しいまちKAIBARA」 ー時空をデザインする価値共創都市をめざしてー

- 歴史・伝統を継承しつつも、時代潮流の変化の中で多様な暮らし方、働き方の実現が可能な都市
 - 古来より知恵が生まれ、練られる場であった歴史を継承し、価値創造に挑戦するすべての人をあたたかく受け入れ、新しい知恵の創造、イノベーションの創出に取り組む
 - 多種多様な新たな人と出会い、交わり、学び、探求し、新たなコトにチャレンジでき、人々に刺激を与える、知的好奇心に富んだまち
 - 「次世代活動・交流層」が集積し、丹波という地域を越え、広域的に新しい人の流れを生み出す磁場として発展するまち
 - 「デザイン」がこのまちの発想の原点。街並み、建物といった空間だけでなく、文化、暮らし方、エリアマネジメントなどソフト面でも、デザイン感度の高いまち
 - 丹波のショーケースであり、丹波らしい人々、もの、生活文化に出会うことができるまち
 - 誰をも受け入れる、包み込む懐が深いまち、誰しもが程良さ、居心地の良さを感じるまち
 - 伝統(柏原らしさ・丹波らしさ)と新しいチャレンジ、試行錯誤のなかから、世界と分かち合える21世紀の普遍的な暮らし方(持続可能な自律分散型居住スタイル等)を提案
- 明治の近代化や、「丹波の森づくり」を先導してきた伝統を引き継ぎ、再び丹波の次代を切り拓くミッションに挑むまち、柏原

(19世紀) 門前町・城下町 → (20世紀) 行政・教育都市 → (21世紀) 価値共創都市

検討の視点ー双眼的・複眼的・多元的・統合的視点ー

[本編 p13]

- ・伝統と革新
- ・広域と狭域(広域圏と歩行圏)
- ・定住と交流(定住人口と関係人口)
- ・多様性と包摂
- ・仮想と現実

サブコンセプト

[本編 p15~17]

「つながり」「心地よさ」「挑戦」 3C=Connected, Comfortable, Challenge

■ つなぐまち、つながるまちーコネクティッド・シティKAIBARAー

～柏原は時空を超えて様々なものをつないでいきます～

- 様々な人をつなげ異質な出会いを演出
- 自然と人間をつなぐ空間
- 過去と未来がつながった都市
- 新しい暮らし方・働き方の実践の場
- しごとと暮らし、生活と観光がつながったまち
- 仮想と現実がつながったまち

■ 程良さが心地よいまちーウェル・バランスドシティKAIBARAー

～柏原は滞在するすべての人に居心地の良さを提供します～

- まちの佇まい、風情が心地よいまち
- まちなかに自分の居場所があるまち
- 食・住・遊のバランス、仕事と生活のバランスのとれたまち
- 自然とのふれあい
- 健全なまち、健康面からも心地よいまち

■ 挑戦を支えることで成長し続けるまちーチャレンジシティKAIBARAー

～柏原は学び続ける、行動し続ける人たちを応援します～

- 市民の主体的な活動を支援
- 起業や創作活動を志す人を後押し
- 最先端のスマート技術基盤が整備され、仮想空間で活動しやすいまち
- 事業創造、起業の拠点
- 多様な学びの場を創造

将来の姿 (203X年)

[本編 p18]

- 柏原駅の連絡通路を通して城下町地区と柏原駅南用地、丹波の森公苑の間を行き来する新たな人の流れ
- 丹波の文化創造発信拠点である柏原駅南用地の施設や丹波の森公苑は、市の内外から来る訪問客・滞在客で賑わう
- 柏原駅南用地や城下町地区には、若い世代を中心に域外から人が移り住んでいる一大都市からUターンシテレワークする若者、二地域居住の拠点にする域外の人々(関係人口)等
- 柏原駅南用地のオフィス棟、城下町地区の古民家、丹波の森公苑施設などに様々な活動スペースが誕生ー行政機関職員、地元企業社員、学生らが利用
- 市の内外から起業をめざす人や創作活動に取り組む人たちが、数多く流入し、新たなテクノロジーやデザインを学ぶ

- 丹波の森公苑にある支援機関などを介して、起業者・起業志望者間、クリエイター間の交流が盛んに
- 新たな交流、つながりの中で、丹波の資源を活かした新事業が誕生。デザイン性に優れたショップや空間、メイドイン柏原・丹波の優れたデザインの商品がさらにこの地へと人々を惹きつける誘因に
- 城下町地区では、世代を超えた交流の場、まちの居場所がつくられるー住民間だけでなく、住民と滞在者(次世代活動・交流層)、訪問者の新たなつながりが誕生
- 城下町地区では、歩いて暮らせるまちづくりが進むー街路整備、ポケットパーク等の整備、EVカート等での移動支援
- 柏原交流ゾーンでは、専用回線の整備がなされ、城下町地区と柏原駅南用地、丹波の森公苑ではどこにいても高速、大容量の通信が可能に
- 持続可能な都市をめざし、ゾーン全体で再生可能エネルギーの活用や資源循環等に取り組む

IV エリア別構想

[本編 p19～22]

柏原駅南用地—NEW KAIBARA—



【エリアコンセプト】

- 21世紀社会に相応しい新しい働き方、暮らし方が可能な空間 <FRONTEDGE KAIBARA>
- 丹波市、丹波地域の玄関口であり、その魅力を発信するショーケース <CHATTA(ちゃった) KAIBARA>
- 丹波の木のぬくもり、木のある暮らしを体感する場 <WOODY KAIBARA>

【整備の方向性】

- ・ 様々な人が集い、交わり、学び、新たな価値、文化を創造する空間
- ・ 次世代活動・交流層が集積し、磁場となるような空間
- ・ あらゆる世代が憩い、佇み、活動する場
- ・ 多目的利用、柔軟な利用が可能な施設として整備
- ・ 新しい柏原、新しい丹波を象徴する地区として整備
- ・ 丹波市、丹波地域の産物を展示・発信、販売する施設を整備
- ・ 丹波産木材を使って建築物を全て木造化・木質化
- ・ 丹波の玄関口に相応しい宿泊・滞在・交流施設
- ・ 丹波の森公苑のゲートウェイ、ランチとして機能
- ・ 城下町地区と丹波の森公苑をつなぐ結節点

【導入が想定される主な施設・プログラム等】

- ・ 芝生広場
- ・ 木のクラブハウス (交流スペース&デザインズビル「木の迎賓館」)
- ・ 集合住宅・滞在型施設 (木造中層建築物等)
- ・ マイクロバウハウス (芸術工芸学校)
- ・ 木のハコ・オフィス (多目的ワークスペース)
- ・ モデルハウス (丹波型環境共生・健康住宅)
- ・ サロン・デ・デザイン (市民主体の学習交流サロン)
- ・ エキヨコ (商業・物販・飲食施設)
- ・ ミニ・トランジットモール (発着場)
- ・ シンボルタワー (木製展望台)
- ・ スマートKAIBARA (Local 5G拠点)

[本編 p23～25]

丹波の森公苑—HILLSIDE KAIBARA



【エリアコンセプト】

- 新しい丹波の暮らしをデザインする知識創造拠点 <KNOWLEDGE KAIBARA>
- 新しい余暇・スポーツの楽しみ方を提案する余暇創造拠点 <FUN KAIBARA>
- 里山の営みを五感で感じることができる、都市と自然をつなぐ空間 <GREEN KAIBARA>

【整備の方向性】

- ・ 文化・生涯学習活動から、知識創造、事業創造、余暇創造まで、あらゆる創造活動の拠点として機能向上
- ・ 丹波の森づくりの拠点として、持続可能な地域づくりについての研究・実践活動を推進
- ・ 地域発イノベーションの創出をめざすシリ丹バレー構想のヘッドクォーターとして多様な事業活動を促進
- ・ 丹波の森公苑の活動の仮想化
- ・ 全て世代の人が学習、余暇・スポーツを楽しめる場として魅力向上
- ・ 里山に入り、里山で学び、活動する機会を提供

【導入が想定される主な施設・プログラム等】

- ・ ナレッジ柏原・森のナレッジサロン
- ・ ヴァーチャル「丹波の森公苑」
- ・ 森のビジネスパーク
- ・ 森の文化体験館・縄文の森
- ・ 丹波の森探求学習センター
- ・ アーバンスポーツ・ニュースポーツ系施設
- ・ 昆虫館・動物ふれあい広場
- ・ プレイスメーキングの実践
- ・ 里山シャトルの運行 (EVトウクトック、EVカート)

[本編 p26～29]

城下町地区—OLD KAIBARA—



【エリアコンセプト】

- 誰もが自分の居場所のある、安らぎに満ちたまち、柏原 <HOMETOWN KAIBARA>
- 賑わいが戻り、絶えずどこかで人の話し声が聞こえるまち、柏原 <REBORN KAIBARA>
- 街中で小さな挑戦ができるまち、柏原 <CHALLENGE KAIBARA>

【整備の方向性】

- ・ 歴史的建造物を保全し、その魅力の維持・向上に向け街並み景観の整備を推進
- ・ 空き家を有効利用し、多様なまちの居場所を創出
- ・ まち全体をコワーキングスペース化
- ・ 空き家・空き地利用を促進し、起業や創作活動などにチャレンジできる機会を提供
- ・ 様々な芸術にふれることのできるまちづくりの推進
- ・ 古い市街地に最先端の情報通信基盤を整備
- ・ 歩いて暮らせるまちづくりの推進

【導入が想定される主な施設・プログラム等】

- ・ 「まちの居場所」づくりプログラム
- ・ 「市が立つまち柏原」プログラム
- ・ まちごとコワーキングスペース「まるごと柏原」
- ・ ポケットパーク
- ・ コミュニティ冷蔵庫・保管庫 (フードバンク)
- ・ まちなか道具蔵・リペアハウス
- ・ まちなか食堂 (子ども食堂・大人食堂)
- ・ まちなかミニギャラリー、ミニ博物館
- ・ 拡張現実、仮想空間での「柏原城下町」の再現
- ・ スマートKAIBARA (Local 5G拠点)
- ・ まちなかシャトルの運行 (EVトウクトック、EVカート)

V 3つのエリアの一体的整備、連携

[本編 p30～31]

- 歩行者動線の整備**
 ー歩行者専用空間の確保、駅南北の連絡道・連絡橋等の施設整備
- 新たな移動手段の導入**
 ー里山シャトル、まちなかシャトルの運行:EVトゥクトゥク、EVカート等のグリーンスローモビリティを丹波の森公苑～柏原南用地間～城下町地区間で定期運行
 ーミニトランジットモール(発着場)の整備による交通結節機能の強化
 ーサイクルステーションの設置
- 高速大容量通信網の整備**
 ー専用回線の敷設:兵庫情報ハイウェイのアクセスポイントから、城下町地区～柏原南用地～丹波の森公苑間に敷設。柏原交流ゾーン全体で高速大容量の通信が可能に
 ーIT特区・スマートKAIBARA(Local 5G拠点):城下町地区及び柏原駅南用地の一団の用地をIT特区に位置づけ、Local 5Gの利用が可能な施設を整備。
- エリアマネジメント組織の設立**
 ー柏原交流ゾーン全体のエリアマネジメントを行う
 パートナーシップ(協議会)組織を設立
 ーエリアブランディングを一体的に実施
 ー集客イベントやたんばコインを活用したキャンペーンなどを関係機関と連携して実施
- 循環型・環境共生型社会経済システムの導入**
 ー再生エネルギー利用、廃棄物リサイクルなど、環境面でもゾーン一体となった取組を推進
 →再生可能エネルギー100%ゾーン
 ー循環経済、共有経済の実現に向け、デジタル技術を活用した新しい仕組みの導入を促進
 →地域電子ポイント「たんばコイン」の活用による資金循環の促進



＜3エリア間の連結・回遊方法＞

VI 柏原交流ゾーンを核とした広域連携の推進

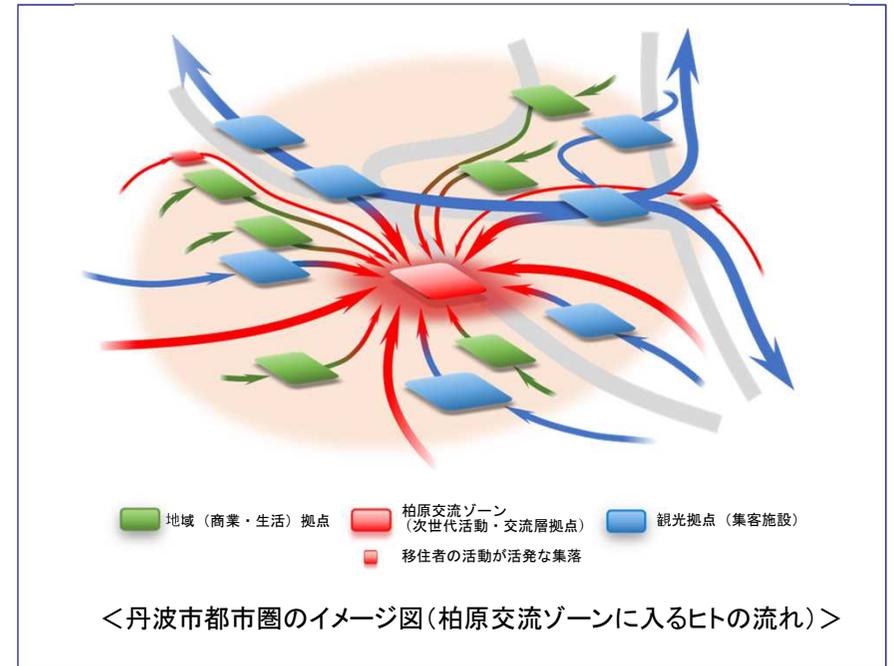
[本編 p32～33]

＜丹波市都市圏における柏原交流ゾーンの可能性＞

- ー「次世代活動・交流層」をターゲットにした施設群の独自性、固有性から、観光客にとっての**新たな訪問先(デスティネーション)**になりうる
 →丹波市内での周遊型観光が多様化し、観光客の市内滞在時間、観光消費額の拡大に寄与する可能性
- ー**地域住民**が、地元の商業施設や生活施設等にはない文化・交流、商業機能を有する柏原交流ゾーンを**新たな立ち寄り先**として活用
- ー市内集落に居住する**移住者**等は、「次世代活動・交流層」拠点である柏原交流ゾーンを自らの活動空間、交流の場として利用

＜柏原交流ゾーンと市内拠点・施設間の連携推進＞

- ー市内の道の駅等の集客施設と柏原交流ゾーンの商業・物販施設間で**イベントやキャンペーンを一体的展開**
- ー柏原交流ゾーンと市内文化施設間で、リレー方式や共通テーマでの**展示会・催事の共同実施**
- ー木工製品、農産物、地場産品などの**アンテナショップ**を交流ゾーンに出店。そこから、本拠地や制作・加工・生産の現場への**コト体験ツアー**などを企画・催行
- ー市内の観光・集客施設や里山などの自然空間との間をつなぐ、**巡回・周遊バス**の運行や自転車・EVバイクなどの**レンタル事業**の市内展開
- ー車を置き、歩いてあるいは自転車、公共交通機関に乗って市内各所を巡る、**脱自動車型、時間消費型の旅(パーク&ウォーク、パーク&ライド型ツアー)**の提案



Ⅶ 構想実現に向けて～基本計画策定に向けての課題～

[本編 p34～35]

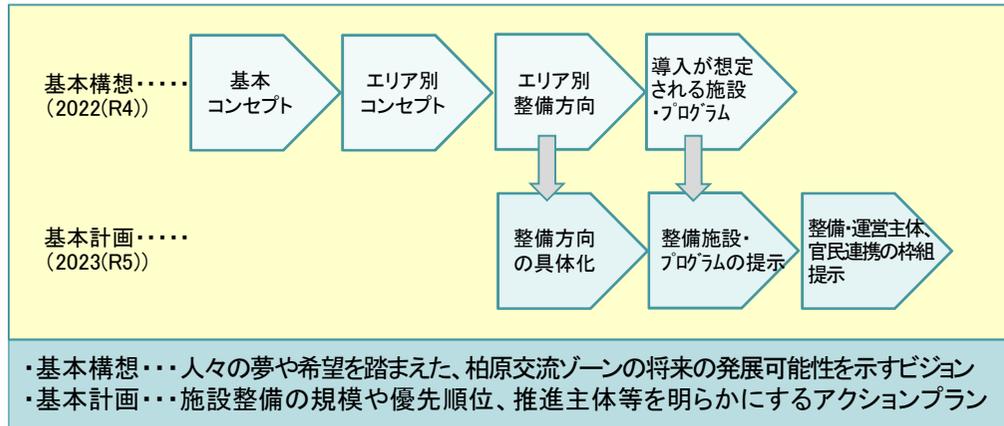
・ 整備方向の具体化

ー3つのエリアの整備方向をさらに具体的に検討、施設やプログラムの関連付けを実施

・ 今後導入が想定される施設のフィージビリティ検証

- ー施設の実現可能性を検証し、施設整備の優先順位を明示
- ー既存施設の活用(転用、多目的利用)も検討(丹波の森公苑、城下町地区)
- ー各施設の整備主体の検討

<基本構想と基本計画の関係>



・ パートナーシップ形成と主体間の役割分担

- ー柏原駅南用地の整備:民間活力の活用を基本としつつ、官民連携のあり方を基本計画で示す
- ー城下町地区の整備:(株)まちづくり柏原との事業協働の枠組みや市民参画のあり方を検討
- ー丹波の森公苑の施設整備:(公財)兵庫丹波の森協会と民間事業者、NPO等との連携のあり方について検討

・ JR柏原駅へのアクセス検討

- ー柏原駅南用地からJR柏原駅へのアクセス方法について、駅南用地のゾーニング、土地利用・施設配置計画を策定するなかで検討
- ー駅直結(駅南改札設置)、あるいはJR福知山線を跨ぐ南北連絡橋の設置によるアクセス確保のいずれか(もしくは両方)を選択
- ー柏原駅駅舎(ウッディプラザ山の駅)の改修の必要性についても検討
- ー南北連絡橋に関しては、自転車、グリーンスローモビリティ等の利用も勘案

・ ゾーン周辺エリアとの機能連携

- ー旧柏原病院跡地など周辺用地とゾーン内の用地・施設との機能連携のあり方について検討

・ 柏原駅南用地の暫定利用推進

- ー2023(令和5)年度から様々なイベントに用地を提供
- ー柏原駅南用地の整備完了までの土地暫定利用方策について基本計画に示す

キーワード「次世代活動・交流層」

[本編 p10]

- ・ポストコロナ社会、超スマート社会に対応し、時間や場所にとらわれない働き方、暮らし方(テレワーク、ワーケーション、ノマドライブ等)を志向する人々
- ・しごとや活動に応じて複数の住まいを柔軟に使い分ける(多拠点居住)、あるいは定住場所を持たず各所で滞在・活動(ノマドライブ)するなど、自由で、多様なライフスタイルを实践しようとする人々
- ・IT業務や創作活動(デザイン、アート)等に従事し、時代感覚に富み、教育や食、デザイン等への感度の高い人々

- ・基本構想では、この「次世代活動・交流層」の集積をめざし、この層を惹きつける、多様なライフスタイルの選択が可能ならまちづくりの推進をうたっている
- ・この「次世代活動・交流層」として期待される人々と地域密着層や観光・来訪層が、交流・連携を進める中で、共に新たなライフスタイルを創造・創発していくことが期待される



図 柏原交流ゾーンに集い、交わる人々による新たなライフスタイルの創造